

# 大空に翔る

## 令和二年度 山形県スポーツ少年団指導者・育成母集団研修会

最上地区スポーツ少年団指導者協議会 会長 五十嵐 忠一

十一月十四日(土)新庄市民プラザにおいて、県内各地より九十七名の参加を得て、研修会が開催されました。今年には新型コロナウイルス感染症の影響により、参加者を制限しての開催となりました。感染予防のため、体調チェックシートへの記入、消毒や検温など、参加者の皆様や関係各位の御協力の下、無事終えることができ、感謝いたしております。

開会行事では、来賓として、永井康博最上教育事務所長より、日頃のスポーツ指導を通じた子供たちの健全育成へのお礼とスポーツ少年団へ期待すること等の挨拶をいただきました。

研修会は、感染予防の観点から事例発表やグループ討議等は行わず、やなぎ接骨院院長の矢萩裕氏、大蔵村診療所の深瀬龍氏という、



二人の先生それぞれからの講演となりました。まず、矢萩氏より「少年期における傷害予防への効果的なトレーニングについて」と題

し、講演いただきました。発達段階により負傷しやすい部位や怪我の内容が異なること、それをふまえてケアしなければならぬことを教えていただきました。また怪我をしないための予防コンディショニングについても学ばせていただき、怪我は痛みが引けばよいというものではなく、そのあとの筋肉やバランスを元の状態まで戻すことが重要であると感じました。今後の子どもたちへの指導に十分に活かせるものでした。

続いて深瀬氏からは「コロナ禍からのメッセージ」と題し、ご自身が体験したことも含め講演いただきました。「新型コロナウイルスは基本的には風邪の一種、しかし、未知のウイルスとすることが人々の不安を煽り、その不安の矛先を感染してしまった人や地域への差別に繋げてしまう。」とのことでした。実際、深瀬氏も大蔵村での感染発生後、感染した患者さんや地域そのものが差別を受けたことを問題視しており、「新型コロナウイルスは災害と同じであると考え、発生してしまつたものは仕方がない。その後のケアが大切。」とおっしゃっていました。

また、次のような話も印象的でした。「現代は情報社会です。必要な情報も不要な情報もすぐに手に入れることができます。その情報は本当に正しいものなのか、大人が判断しなければなりません。子どもは大人のすることをと

てもよく見えています。私たち大人が不安や疑心もち、差別や偏見をしまつと、子どもたちも同じように真似をしてしまいます。正しい態度、姿勢を見せる。」簡単なことではありませんが、自分自身を見つめなおす機会でもあるのではないのでしょうか。

このほかにも、新型コロナウイルス感染予防のための方法として、スポーツ活動を行う上での手洗いは、もつとも効果的で手軽にできる感染対策であることや、三密をさける必要性、ウイルスを運んでくる原因が主に大人であることを話していただき、今後のスポーツ少年団の活動に生かし、感染対策をしっかりとることによって安心してスポーツが出来るよう、みんなで継続した努力をする必要があると感じました。

参加された方からは、「指導者として怪我には注意を払っているが、その予防や怪我をしてしまった時の対処を再確認できた。」「新型コロナウイルス感染症は広がるとスポーツ少年団の活動にも影響が出てくる。しっかりとした予防対策をしようと思った。」などの感想が寄せられました。



限られた時間の中ではありましたが、講師のお二人の先生には、今後の活動につながるお話をしていたいただき、大変有意義な研修会となりました。

# 単位団紹介

FC中山スポーツ少年団(中山町)

代表者 秋葉政則

FC中山スポーツ少年団は昭和五十一年に、一級審判員(国際審判員)として活躍された船山景正氏のご助言で中山町サッカー協会の前身が中心になり発足しました。

現在、主に長崎・豊田小学校の二年生から六年生の総勢三十五名の団員が全国大会出場を目標に掲げ活動しています。団員数が一〇〇人を超え、長崎・豊田と二つの少年団で活動した時代もありましたが、少子化により統合し現在に至っています。

各学年の団員数の減少により複数学年で混成したチームで、前年度はU12東北地区サッカー少交流大会ベスト4進出、J-CカップU11サッカー全国大会出場など好成績を挙げることができました。残念ながら令和二年度は各種大会が中止され少年団活動も制限されるなど団員にとっては試練の年になりました。現在のコロナ禍が終息し、早期に通常の活動に戻れるよう願っています。

団の理念である、試合の勝敗だけに拘らず、仲間、保護者、指導者及び対戦相手や審判、施設、用具等に対し感謝する「リスペクト・大切に思うこと」の精神を育めるよう、今後も活動を行ってまいります。



# 舟形スポーツ少年団(舟形町)

代表者 沼沢 弘明

舟形スポーツ少年団は、舟形ビッグサンダーズ(野球)・舟形クロバーズ(バレーボール)・舟形サッカー・舟形相撲クラブ、舟形クロスカントリースキーからなる複合団として各競技ごと活動しています。代表して、舟形ビッグサンダーズを紹介します。



全国大会出場を目標に活動を始めました。今年には雪が少なく、早くグラウンドで練習ができるようになっていきましたが、新型コロナウイルスの影響により、全体練習ができない状況が続き、全国や様々な大会が中止、延期となっていました。

活動自粛期間後は、県大会優勝という新たな目標を持ち、限られた活動の中で頑張り目標を達成することができました。これは、舟形ビッグサンダーズの活動で、特に大切にしている三つの方針が浸透したからだと思っています。一、挨拶や礼儀をしつかりすること、二、道具や仲間を大切にすること、三、感謝の気持ちを常に持つことです。この三点を今後も徹底指導していくことで、これらをさらに当たり前にできれば、野球に対する姿勢も向上し、自然に個人もチームもレベルアップし、また、個々の心の成長につながると考えています。

子ども達が楽しく活動し、心と身体が成長できるようこれからも支援していきたいと思えます。

# 川西ソフトボールスポーツ少年団(川西町)

代表者 齋藤 真

二〇一〇年に二つのソフトボールチームが一つになり、今年で十周年を迎えます。

そこで、指導者一同初心に戻り指摘する指導から、

- 「一 揃える」
- 「二 考えさせる」
- 「三 楽しむ」

に方針を変えました。

スポーツ少年団の活動で勝利至上主義は良くない等の声を聴きます。しかし、私は、勝つ経験は大切だと思いません。スポーツには、勝者・敗者が存在します。初めから負けを意識しては成り立ちません。ただ、勝つ為には何をやっても良い訳ではありません。フェアプレイ精神から逸脱したり、常に固定したメンバーで全試合させたりするのは違うと思います。

試合によっては、メンバー全員が出場する機会を確保することを念頭においています。監督・コーチの顔色を伺ってプレーしなければならぬ雰囲気は決して作ってはいけません。試合前に「負けたら監督のせい。勝ち君達の頑張り。」と伝え試合に臨ませています。

選手自らプレーしている感覚になれる事が心がけています。そのため、指導者も日々勉強が大事と考えております。



# 余目野球スポーツ少年団(庄内町)

代表者 渋谷 健

余目野球スポーツ少年団は、余目の四つの小学校から団員を募集しています。

ここ数年は十年前に比べて団員数は約半数と減少していますが、現在は二年生から六年生までの二十三名の団員で活動しています。少子化、野球離れ、運動離れが懸念される中、毎年二十名前後で活動できることをありがたく思います。



コロナ禍で始まった今年度は、例年通りの練習や試合ができず、当たり前で野球ができる喜びや悔しさを経験することができず、非常に残念に思います。いつも通りの日常に一日でも早く戻ることを願います。

高校野球連盟の後押しもあり、ティールボール活動を新入団員中心に取り組んでいます。柔らかいボールとバットを使って行うので、親しみやすく楽しいと好評です。

近年、余目野球スポーツ少年団で野球をした子ども達が、毎年のように甲子園に出場しています。中学、高校で野球を続けて頑張っているのは、スポーツ少年団時代に学んだ礼儀、感謝する気持ちや土台としてあるものと思えます。今後も指導者・コーチが一人ひとりの団員を後押しし、生涯に渡ってスポーツを楽しんでもらえるよう、最新の知識と情報を伝えていきたいと思えます。

# 団員の夢

## 「目標に向かって」



山口マウンテンズゴリラ  
スポーツ少年団(三木市)  
廣谷 翔真

ぼくが野球を始めたきっかけは、お兄ちゃんが野球をしていて「楽しそう。」と思ったからです。

小学校二年生の時にティーボールチームに入り、三年生の春から山口マウンテンズゴリラに入団しました。

はじめはボールも取れず、遠くへ投げることもできませんでしたが、監督コーチから教えていただいていたことを素直に聞き、少しでも野球が上手になれるよう基礎練習をがんばり、学年が上がるごとに、走攻守どれも少しずつ上達してきました。

現在は、キャプテンとしてチームをまとめる立場となりました。「やればできる！」を合言葉に、キャプテンとして仲間と積極的に交流し、理解を深めています。また、大会で悔いが残らないよう何事にも全力で取り組むことを心がけ、優勝を目指しみんなで練習をがんばっています。

野球は一人ではできないスポーツです。僕は野球を通して、仲間の大切さや礼儀を学ぶことができました。スポーツで培った経験を生かし、中学校に行っても野球を続けたいと思います。最後にぼくの夢は、プロ野球選手になり活躍することです。そして、日本代表を目指します。その夢をかかなるために、努力を惜みず、心も体もきかせていきたいと思っています。

## 「チャンピオンへの道のり」



最上ボクシングクラブ  
スポーツ少年団(最上町)  
菅 瞬介

ぼくが、ボクシングクラブに入団したのは小学三年生の時でした。昔、祖父と父がボクシングをやっていて、小さい頃から父と遊びでやっていたことを覚えています。

ぼくは、体を動かす事が好きだったことと、ボクシングがカッコいいなと思いついて、ずっと続けてきました。これまでボクシングを続けて、良かったと思うことが二つあります。

一つ目は、試合に勝った瞬間です。レフリーが、ぼくの手を大きく上にあげ、勝利が決まった瞬間はうれしいのと勝ててよかったという安心の両方の気持ちになります。

二つ目は、他チームにボクシングの友達ができたと。練習試合や大会で会えることはとても心強いです。

ただ、試合に勝利するための努力が一番大変でした。父とのトレーニングがきつくて涙を流すことも多く、毎日の自主練習も大変です。一人で近所をランニングしたり、車庫でシャドーしたり体重の管理も大切です。

六年生になってから二度、東北チャンピオンになることができました。

ぼくの今後の目標は、全国大会でチャンピオンになることです。ボクシングはリングで戦うのは自分だけです。自分の弱点をなくせるように練習をたくさんして着実に力をつけて、強くなっていきたいです。

## 「シャトルに夢を乗せて」



長井バドミントン  
スポーツ少年団(長井市)  
清野 和夏菜

私は、小学三年生の時に、偶然手にしたスポーツ少年団の入団申込書がきっかけでバドミントンと出会いました。その時から私は、心からバドミントンを楽しんでいます。

初めは、大会に出ても全く勝てずに、悔しい思いをしました。それでも、諦めずに練習を重ね、ようやく勝てるようになりました。四年生、五年生と続けて東北大会に出場することもできました。

バドミントンの他にも、基礎体力や運動能力を高めるために、「YAMA GATA ドリームキッズ」プログラムに参加しています。活動で学んだことやトップアスリートを目指す同期生との交流で、「オリンピックになる」という夢ができました。

六年生になる来年度は、「全国大会出場」という目標を掲げて、日々練習に励んでいます。辛く厳しい練習もあります。しかし、全国大会という大舞台に向けて、そして、長井バドミントンスポーツの先輩や仲間たちがいるからこそ、一緒に励まし合いながら頑張ることがができます。

私の夢への挑戦はまだ始まったばかりです。夢を実現させるために、どんなに辛くとも諦めることなく、前を向いてシャトルを追い続けていきます。

## 「大好きなバレーボール」



遊佐ビクトリーズ  
スポーツ少年団(遊佐町)  
加藤 瑠梨華

私がバレーボールを始めたきっかけは、姉がバレーボールをしていたからです。体育館でプレーしている姿が楽しそうでも姉のようにできたらいいなと思い、二年生の時に正式に始めました。

始めたばかりの頃、チームの人数が少なかったため、低学年の私も試合に出ることになりました。その試合では先輩方が引張ってくれたので、初出場でも二位になることができました。でも、私は何もできませんでした。それから大会で勝てるように一生懸命に練習しました。

そして五年生の時にキャプテンになりました。その時はチームの人数も増えていたので、チームをまとめる大変さを体験しました。でも、みんなとコミュニケーションを取ることで、好きなバレーボールをもっと楽しくできるようにになりました。

今年度はコロナウイルスの影響で大会が少なく残念でした。数少ない大会で優勝はできませんでしたが準優勝することができたので良かったです。

中学校でも大好きなバレーボールを続け、支えてくれる周りの人へ感謝の気持ち忘れずに、友達と一緒に良い結果を残せるように日々の練習を頑張りたいと思います。

市町村の動き

長井市スポーツ少年団本部事務局



長井市スポーツ少年団本部は、昭和五十七年の設立以来、学校との連携、地域クラブとの連絡調整を密にしてきました。また、組織の拡充を図りながら、単位団と共に特色を出した活動を展開してきました。現在は、二十三団、六二十八人の団員と一四九人の指導者・スタッフが所属して日々活動しています。

今年度は、コロナ禍の影響から本部事業、単位団活動とも、中止や規模縮小を余儀なくされました。これまでの日常が一変し、団員も指導者も戸惑いました。このような中でも、ながいユナイテッドフットボールクラブが、サッカー競技において全国大会に出場したことは、本市関係者にとって明るい話題となりました。

市本部では毎年、市体育協会と合同で指導者・育成母集団研修会を開催し、指導者等のスキルアップを図っています。合同入団式、合同体力テスト・社会奉仕活動、種目別交流会など団員交流も盛んに行っています。これまで日独同時交流受入の実績もあり、今般の東京五輪を契機とした更なる交流事業

の充実が期待されます。今後も子どもたちを取り巻く環境変化に柔軟に対応しながら関係機関との連携を大切にしていきたいです。そして、スポーツ少年団活動を通じて子どもたちが生涯にわたってスポーツを楽しめるよう邁進していきます。

県の動き

表彰

○文部科学大臣表彰

〈生涯スポーツ功労者表彰〉上野義弘(鶴岡市)、柴崎美枝(寒河江市)

○日本スポーツ少年団顕彰

〈市区町村表彰〉山辺町スポーツ少年団

〈表彰指導者〉渡辺正博(寒河江市)、

長南泰久(大蔵村)、早坂裕子(鶴岡市)、

石川武利(庄内町)

○山形県スポーツ少年団表彰受賞者

〈功労者〉保科雅美(村山市)、斉藤進

(大蔵村)、浅野厚司(南陽市)、井上

道雄(長井市)、本間一彦(鶴岡市)、

阿部好弘、川村広道(酒田市)

〈優良団〉出羽サッカー(山形市)、高

松アタッカーズ(寒河江市)、鮭川Jr

バレー(鮭川村)、南陽市空手道(南

陽市)、飯豊ドリームズ野球(飯豊町)、

第五学区バレーボール、鶴岡和道空手

道(鶴岡市)

事業

○県指導者・育成母集団研修会

十一月十四日 新庄市民プラザ

〈参加者〉九十七名

令和三年度  
スポーツ少年団登録コンセン

新型コロナウイルスの感染拡大により、令和二年度スタートコーチ(スポーツ少年団)養成講習会の実施を中止したことに伴い、令和三年度に更新登録を行う予定であった単位スポーツ少年団が、更新登録ができなくなることが生じるため、該当スポーツ少年団を救済する特例措置が設けられました。令和三年度に限り、全ての更新登録単位スポーツ少年団を対象に、「スポーツ少年団の理念を学んだ登録指導者」が一名以下でも更新登録することを可能とします。ただし、その場合、登録者(指導者、役員およびスタッフ)のうち少なくとも一名<sup>1</sup>※または二名<sup>2</sup>※が、令和三年度にスタートコーチ(スポーツ少年団)養成講習会の受講を修了することとします。

<sup>1</sup>※「スポーツ少年団の理念を学んだ登録指導者」が一名の場合

<sup>2</sup>※「スポーツ少年団の理念を学んだ登録指導者」がいない(0名)の場合

スポーツ安全保険

文化活動も  
加入出来ます

対象となる事故 団体活動中の事故 / 往復中の事故

保険期間 令和3年4月1日の午前0時から令和4年3月31日午後12時まで



公益財団法人 スポーツ安全協会 山形県支部

TEL 023-642-8321 電話受付時間 午前9時~午後5時(土、日、祝日を除く。)

保険の詳細内容、資料の請求は、ホームページをご覧ください。  
ご加入はインターネットからのお手続きが便利です。

スポーツ安全保険

検索